

「防災リーダーの育成を目指して」

平成 24 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 高知県立須崎高等学校

I 学校における背景、問題意識

須崎市は、その地形的な特性から、過去に繰り返し地震津波の被害を受けている。須崎高校は、その須崎市内にあって河口近くに立地し、津波被害を大きく受けることが予測され、南海トラフ地震対策が急務である。そのため、平成 22 年度から校内では、施設設備の安全点検や防災講話などを行い、防災への意識を高めている。地域においては、南海地震フォーラムを開催し、地震や津波などの情報発信をするなど、地域とともに連携を深めながら防災教育や防災活動を行っている。

II 取組のポイント

- ①生徒に「主体的に行動する力」を身に付けさせるための防災マニュアルや教材を作成し、それに基づく有効な指導を研究し、関連する教科・行事などで実施。
- ②臨機応変な避難行動がとれるような実践力や常に率先避難者となるような意識の向上、行動力を養うことができるように様々な想定した避難訓練の実施。
- ③地域との連携の下、防災教育・活動の実施。

III 取組の概要

1 防災教育・減災活動の推進

目的

地域との連携を深め、南海トラフ地震に備えた防災・減災教育に重点的に取り組み、防災リーダーの育成を目指す。

内容

- ・須崎市との防災協定の継続及び地域と連携した防災教育の推進
- ・南海地震フォーラムの開催（須崎市と

の共催)

- ・地域防災の核となる防災リーダーの育成
- ・他の教育機関や防災教育機関との連携

2 取組内容

(1) 避難訓練の実施

①第 1 回目（4 月 12 日）

岡本地区下組避難道を使っての地震・津波避難訓練を 4 月 12 日に実施した。1 本の避難道に 320 人が一斉に詰めかけたため、たちまち渋滞となり動きが止まってしまった。地域の方と避難道のわきの草木を刈ったり、海拔 20m までの階段の掃除を行ったりしているが、傾斜もきつく、道幅も狭いので思うように進まなかった。

避難開始後 10 分経過して海拔 20m 地点に到達していない生徒が 91 名、須崎市斎場へ最後の生徒が到達したのは、避難開始から 20 分が経過していた。避難経路を増やすことと、避難訓練の継続的な実施が必要である。



【避難の様子（グラウンド裏）】



【避難道入口の様子】

②第2回目（12月11日）



12月11日（火）5・6時間目に震度6強の地震が発生し、10分後に津波が襲来するという設定のもと、中・高合同避難訓練を実施した。地域の方も参加して、総勢600名程が一斉に避難した。

それぞれの校舎で地震の揺れから身を守った後、岡本地区の下組避難道、下組高校裏避難道の2ルートから避難場所である須崎市斎場を目指した。混乱を避けるため、どのルートを使うかをあらかじめ設定して避難するようにしたが、後のアンケートを見ると、「あらかじめ設定するのはどうか、個人で選択すべき」「実際に地震が発生した時、あの避難道を使うと決まっているのか？」という意見があり、この点については実際に即していないと思われ、今後は複数の避難道から各自が選択し、避難するという訓練方法を検討することとした。

須崎市斎場へは、一番早い生徒が3分ほどで到着し、最後尾の生徒も9分ほどで避難できた。要援護者については、避難道の海拔20m地点までの避難ということで訓練を行った。生徒の避難行動もきびきびとして、真剣に訓練に取り組む様子が見られた。

さらに斎場では、高校生に被災者が数名出たという設定で、防災プロジェクトチームのメンバーが応急手当を施し、チームリーダーに報告、チームリーダーは問い合わせに来たホーム主任たちに状況の報告を行った。

4月から救急法講習会、須崎市総合防災訓練で応急手当を学んできたメンバー

は、すばやく被災生徒から情報を聞き、応急手当を行うことができた。応急手当には、身の回りにあるもので簡易にしかもしっかりと手当てできる材料を使った。今後は全員が応急手当に携われるような訓練内容にし、将来防災リーダーとなる意識や技量を高めていきたい。



（2）防災学習

①救急法講習会

救急法講習会は、4月19日（木）に2年生、20日（金）に3年生が行った。1年生は、集団宿泊研修のため保健の授業で実施した。2、3年生は救急法講習会をすでに経験していることもあり、本年度は応急手当・心肺蘇生法・運搬というブースを設け、順次回りながら学習していくという形をとった。2、3年生になると、手際も良く周りの生徒とも協力しながらスムーズに実技もこなしている。南海トラフ地震対策も視野に入れた講習会となり、地震発生後の状況も想定しながらどう動けばよいのかを考え、生徒からの質問も活発にあり、充実した講習会となった。

来年度は3年生の講習時間を3時間とし、普通救命講習修了証を発行するようにし、実際に活かせる講習会として実施をしていきたい。



②防災2012 in 須高

9月8日（土）に1日防災学習とする「防災2012 in 須高」を実施した。午前中は、1年生と2・3年生に分か

れて災害発生時の対応について学んだ。

<午前>防災学習

1年生：クロスロード

講師：高知県立伊野商業高校
谷内 康浩 教諭 (防災士)



1年生は、様々なケースを用いて災害発生時にどう行動すればいいのかを考えた。「YES」「NO」形式の質問に答え、班活動での話し合いに積極的に取り組む姿勢が見られ、自分のことだけでなく周りの人のこともよく考えた意見が出されていた。今後は実際に「動く」ことを視野に入れた防災学習を取り入れていきたい。

2・3年生：災害時における初動対応

講師：日本防災士会 高知県支部
土居 清彦 先生

2・3年生は、災害発生時どう対応すればよいかを実際に体験した。4月に行った救急法講習会の復習も兼ねて、応急手当や搬送の仕方を学ぶことができた。

また、実際のことを想定し、動きを覚えることもできた。搬送では互いに声をかけあって、被災者役の生徒の様子を見ながら、慎重に運ぶ姿も見られた。被災者への配慮も含めた対応行動を学ぶ良い機会となった。



<午後>南海地震フォーラム

午後からは、須崎市立市民文化会館に

おいて、南海地震フォーラムを行った。平成22年度より開催しており、本年度で3回目となる。

基調講演

「東日本大震災から何を学ぶか」
講師：岩手県立水沢高等学校長
(元大槌高等学校長) 高橋 和夫 氏



基調講演では、避難所となった高等学校の運営の様子とそれに関わった高校生たちの行動力について話をいただいた。自分たちと同じ高校生が、その災害現場にあつて積極的な行動力で避難所運営に関わった事実を知り、自分たちも行動を起こさなければならないという思いが強くなったようであった。今後の防災教育・活動にも大変参考になる貴重な講演となった。

パネルディスカッション

「南海地震に備えて
～高校生私たちのにできること～」



パネルディスカッションでは、安芸高校・高知南高校・高知海洋高校を迎えて、「高校生の私たちのにできる南海地震対策」について意見を出し合った。各校の防災

への取り組み内容を聞くことができ、これから自分たちの学校で何が必要でどう行動を起こしていくのかを明確にしたのではないかと。しっかりとした意思を発表する他校の生徒に、本校生徒も良い刺激を受けた。

来年度も地域の高校として南海地震フォーラムを開催し、情報発信していきたいと考えている。校内の防災教育・活動が全体のものとなり、地域へも広がっていくように取り組んでいきたい。

③防災LH

全クラス公開授業を「地震に備えて～自宅での避難行動の順序と防災袋～」の共通テーマで実施した。指導案や資料、教材などは保健環境部が一括して準備し、各ホームに配布した。授業では、各ホーム主任の創意工夫が見られ、教室が一体となって防災学習が進められている様子が見ええた。学校全体の防災教育・活動を高めていくためには、このような学習の連続性や系統的な学習が年間を通じて行われることが必要である。



9月27日(木) 7限 防災LH

<全学年共通>

<学習形態>

各ホームにて正副主任で行う。

<学習テーマ>

地震に備えて

～自宅での避難行動の順序と防災袋～

<学習のねらい>

1. 自宅地震が起きた場合、地震発生から外に出るまでにどのような順序で行動すればよいか、地震時の動きをイメージしながら確認する。
2. 防災袋には何が必要かを考えさせ、自分自身と家族の安全を守る気持ちを持たせる。

(3) 校内研修(保健環境部主催)

「新ガイドラインによる心肺蘇生法」



本年度の校内研修で、新ガイドラインによる心肺蘇生法を実施した。ガイドラインは5年ごとに改訂されており、全教職員を対象に講習及び実技を伝達しておく必要がある。本校の救急法講習会については、基本的に学校主導型としており、生徒へも講習を受けた教員が指導するという形であるため、教職員への講習についても、保健環境部の教員が中心となって行った。

改訂になった胸部圧迫の深さについては、各班で声をかけて見てもらいながら、十分な深さで圧迫できるまで練習を重ねた。

技法の習得は十分にできており、その後は実際に想定したシミュレーションを行った。3人で傷病者への心肺蘇生法を行い、AEDは実際に設置されている場所へ取りに行ってもらい、その時間を計測するなどして迅速かつ適切な手当てが行われることの重要性への理解を深めてもらった。校内外の不測の事態に対処できること、これは南海トラフ地震への対策にも通ずると考え、続けて実施していきたい。

(4) 地域や防災関係機関等との連携

①岡本地区津波避難場所(5か所)への誘導看板制作及び設置

学校の北側にある岡本地区のすべての避難道に誘導看板を設置しようと制作を開始した。これは地域とともに防災への意識を高めていく、日頃からの防災への啓発に役立てたいという思いから実現した。

制作は防災プロジェクトチームで、看板7枚を完成させた。放課後のわずかな

時間を利用して、メンバーが協力し合い、看板の果たす役割から配色や構図を考えた。「助かってほしい」という思いが自然と流れている空間で、コツコツと仕上げる姿があった。



12月7日(金)に看板の設置を行った。防災プロジェクトチーム、生徒会、須崎中学校及び須崎高校の教員、岡本地区の方々で避難道5か所へ設置した。この日は12月11日(火)に行われる須崎中学校との合同避難訓練のため、使用する避難道の点検整備も行われた。いざ設置となると、必要な工具や留め具、バッテリーなど学校側で十分に用意できず、地域の方々に提供していただいた。

地域の方々と思いをついで、話をしながら看板を立てていくことで、防災への意識が自然と高まったのではと思う。地域からも「立派な看板ができてありがたい。岡本地区の防災対策が一番進んでいる。これで、地域の人も学生も一緒に避難できる」という声を聞き、生徒と教員ともに完成を喜び合った。

②須崎市総合防災訓練への参加 (応急医療訓練)

南海トラフ地震の発生を想定し、市民と防災関係者が一体となって行う避難訓練及び応急対策活動などへの参加により、将来地域の防災リーダーとしてこの訓練を活かし、実践できるように、また防災意識の高揚を図ることを目的として、防災プロジェクトチーム30名、教職員11名が参加した。



まず、応急医療訓練では、主にトリアージの患者役や搬送を行った。参加するにあたり、事前学習会で訓練内容の確認を行い、当日は参加した地域の方々と協力し合って訓練をこなすことができた。

4月に実施した救急法講習会で学習したことを実際にやってみるという貴重な経験をさせていただいた。生徒たちもきびきびと動くことができ、災害発生時の自分の役割、どう行動するかを学ぶ良い機会となった。

(炊き出し訓練)

炊き出し訓練は、前日に日赤奉仕団、須崎市役所職員の方々と一緒に炊き出しの材料の準備を行った。2～3時間は要するのではと思っていたが1時間以内にすべての材料を切りそろえ、完了した。生徒たちの手さばきの良さに感嘆の声があがるほどだった。

当日は非常食米の計量、豚汁の調理など、地域の方々と協力しながら作業を行った。こういった地域の方々との交流は、連携を創り上げていくことにつながり、将来大きな役割を果たしていくのではと考える。



IV 成果と今後の取組

1 取組における成果

生徒に「主体的に行動する力」を身に付けさせるため、本年度の防災LHでは、全学年全ホームで、防災学習を実施した。「地震に備えて～自宅での避難行動の順

序と防災袋～」をテーマに共通の教材や指導案などは事前に検討し、配布したが、実際の授業では各ホーム主任が創意工夫を凝らし、生徒から様々な意見を引き出し、一体となって学習が進められていた。具体的な内容で意見を引き出しやすかったとの教員からの感想もあった。

避難訓練は2回実施した。4月の避難訓練は本校単独で、避難道が1本しかなく、避難完了時刻も20分を超えた。生徒や教員からも避難道整備や他の避難道の造成への要望が多かった。2回目に実施した避難訓練は隣接する須崎中学校と地域も参加して実施した。避難道が2本となり、目立った混雑もなく、10分以内には全員が避難完了した。

本校の所在する岡本地区や須崎市地震・防災課との連携により、避難訓練や南海地震フォーラムなど、多様な防災教育・活動を展開することができた。

2 今後の取組予定

(1) 須崎市南海地震対策冊子合同制作

須崎市地震・防災課より須崎市内の小学校3年生に配布する南海トラフ地震についての冊子の作成協力依頼があった。中に描かれているキャラクターの作成や冊子の各ページの内容、レイアウトに意見が欲しいとのことで現在まで2回の検討会を行い作成を進めている。防災プロジェクトメンバーと美術部で小学生に南海トラフ地震への知識や対策をわかりやすく伝えるためには・・・という点に様々な意見を出し合いながら進めている。生徒たちの今まで積み重ねてきた防災学習や活動が意見交換に深みを持たせていると感じられる。小学生には来年度配布される予定である。

(2) 避難カードの作成

南海トラフによる巨大地震に備え、避難カードの作成を進めている。避難カードとは、財布にいれやすい免許証大のカードで、氏名・緊急連絡先・既往症などの情報を記すためのものである。本校で

はこれを全生徒に配布し、生徒たちの災害後の混乱を最小限に食い止めることを目標にするとともに、災害弱者になる可能性の高い幼児たちのために、近隣の保育園にも配布する予定である。幼児用避難カードは子どもたちが親しみやすい意匠にし、個人情報にも配慮した記入用紙にしている。

(3) 新荘保育園への出前防災授業

大災害に対して高校生のできることは何かないと生徒たちに考えさせた結果、自分たち「自身の安全確保だけではなく災害弱者へのはたらきかけをしたい」という意見が出てきた。災害弱者としては高齢者、幼児、外国人、障害者が予想される。そのうち今回は幼児を対象とすることにした。そこで津波・地震発生後に適切な行動を伝えるための紙芝居を作成し、近隣の新荘保育園で出前授業を行う。高校生の伝える内容と保育園の保育士さんの指導内容にずれがあってはいけないので、事前に園長さんと打ち合わせを行った。3月中に出前授業を行う予定である。

3 今後の課題

本年度は新たに生徒の防災プロジェクトチームも立ち上がり、その活動を中心に防災活動を推進してきた。地域や須崎市との連携も深まり、充実した活動が展開されたが、まだ生徒全体が主体的に取り組む内容とはいえない。地域でのボランティア活動や保・幼・小・中学校との連携も視野に入れつつ、校内で行う防災学習も行事・教科に関連付けて実施し、実際に即した年間を通じての教育活動を行っていきたい。

将来、地域の防災リーダーとなれるようにさらに検討を重ね、3年間の系統的な学習・活動計画を実施していきたい。